

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中にあるグループホームとして利用者の能力に応じ、自立した生活を営みます。」という理念をもとに、基本方針にも地域との関わりということを組み込んで作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティングの時間を使って、理念について話をするを始めとし、毎朝、介護の心得10条の唱和を行い、意識の向上に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の理念を「重要事項説明書」に明示し、玄関や各ユニットに提示している。又、家族会や運営推進会議の開催に際し、ご家族や地域の有識者の折に触れ、理念や取り組み等について説明している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際には、隣近所の方と挨拶や軽いお話をしている。近隣の方が、畑で採られたお野菜を持ってきていただけることもある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社会福祉協議会が開催するふれあいフェスタや地区の夏祭り、海岸の清掃活動等に参加したり、地域の学生さんが職場体験に来られたりして、地域の方々との交流を深めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の学生さんによる職場体験や、人材育成の貢献としてヘルパー研修の受け入れも積極的にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員は、外部評価を実施する意義を理解し、前回受けた外部評価を基にして話し合い、改善に向けての取り組みを行った。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所での取り組みや活動を報告している。参加者の方より地域の情報を教えていただくなど、情報交換の場となりサービスの向上に繋がっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所内で事故があった場合には、速やかに町へ報告書を提出するようにしている。又、ご利用者様の相談だけではなく、災害時のことや消防設備に関しても相談に乗っていただくような連携、機会を作りサービスの向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対しても研修を開催したり、資料やパンフレットも常備しており、制度についての知識を深めている。又、必要に応じて説明を行うようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングにて虐待防止の徹底を図っている。ご家族とも出来る限りコミュニケーションを取り、お困りの事などないか尋ねるようにしている。又、事業所内でも虐待に該当するような事がないか、十分な注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所で出来る事と出来ない事、ケアに関する取り組みや考え方等を丁寧に説明している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が、気兼ねなく話していただくような環境づくりに努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ご利用者様の身体の状況をモニタリング兼評価をして、書類を作成してご家族へ送付するようにしている。又、体調不良等、何か特別な事があった際には電話ですぐに連絡をして対応するようにしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議の開催にて、ご家族のご希望やご要望を出していただく機会としている。又、アンケートを実施し、ご家族より率直なご意見をいただき反映できるようにしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人にとって重要な事についての決定は法人で行うが、ミーティングや個人面談等にて出来る限り職員の意見を伺うようにし、運営に反映するようにしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に柔軟な対応をする為に、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務調整に努めている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正職員のみ事業所間の異動があるが、異動や離職の際はご利用者様にご迷惑を掛けないよう、十分な引継ぎやご利用者様への説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別などを採用の基準とはしていない。未経験からでも働ける環境があると共に意見等を反映し、自己を発揮する場所となるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務の中で取り組みをしている。ミーティングの中でもリスク委員、抑制係を中心とし話し合いをしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、勉強会、外部研修などへの参加支援を行っている。また、法人での研修システムを構築している。	○	「なりたい自分になる」をキャッチフレーズとし自己実現に向け取り組みの強化をしている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での行事に参加したり、定期的な訪問をする事で、意見交換や情報交換を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい環境づくりに向け、日々の業務の中で対話を通しストレスが蓄積しないよう取り組みをしている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年自己評価を実施し職員の努力などが評価されている。又、今年度からは自己目標を設定し、なりたい自分になれるよう研修などを含め支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族、関係者からの情報(生活歴)を基にし、ご本人様のお話を傾聴するように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで幾度も面談を行い、よりご家族の事を知るように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活や環境から必要とするサービスを見極め、ご家族の方と相談しながら適したサービスが受けられるように努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用させていただいたりしている。また、入居前には事業所側から出向きお会いしたりしている。	○	入居前からご家族に情報を提供していただき全職員で把握し、入居後すぐに話題づくりが出来るようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊厳と尊重、ご利用者様本位を念頭に置き、自立支援を行い共に支えあう関係が築けるように努めている。		
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会、面談時には必ずご利用者様の方の話題提供を行い、一緒に話し合うようにしている。また、ご家族の方に相談することも必ず行い一緒に支えていけるように努めている。	○	ご家族の思い、希望を大切に一緒にごり様の事を考えるように努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、ご利用者の思いを理解するように努め、無理のない関係が築けるように支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、知人との繋がりがなくならないよう、ご家族とも協力しながら支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	ご利用者様同士の相性を把握しつつ、レクリエーションや日常生活を通してコミュニケーションが図れるよう、また、支えあえるように努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約上の終了に重きを置かず、繋がりを大切にし関係を大切にしている。また、終了した場合でも、手紙などのやり取りを行っている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を中心に、ご利用者の思いや意向を引き出す努力をし、ケアプランを通じて沿えるように努めている。また、日々の生活の中でも、意向を逃さないために毎日ケアカンファレンスを行っている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が把握できるように、基本情報シートへすべて記入し、閲覧しやすいファイリングをしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	経過記録、申し送り帳、日々のケアカンファレンスにより把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族との面談を行い、ケアカンファレンスを実施している。また、必ず主治医等の意見を反映している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて評価、分析を行い見直している。変化が生じた場合には、ご家族、関係者と緊急カンファレンスを実施し、新プランを作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基にし、経過記録を行っている。また、気づきや工夫等は個人申し送り帳に記入し、反映させている。	○	経過記録については定期的な勉強会を実施し、全職員統一した記録を行えるように努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者様、ご家族の要望に合わせて、食事時間や散歩時間の変更を行い、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回消防署員の方に出向いていただき防災訓練を実施している。また、中学校の体験学習の受け入れも行っている。	○	体験学習のときなどは個人情報に関わるので、ご家族にも了解を得ている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて主治医とのカンファレンス実施後、訪問リハビリ、マッサージの利用をしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に出向いたり、訪問していただいたりして情報交換を行っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは24時間連絡が取れる、また、常時相談できる体制であり、助言、指示を頂いている。月に2回の定期往診、ご本人の状態に応じ常時往診を受けられるように支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常時主治医に相談している。また、認知症専門医のいる病院受診に付き添い相談も行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師には定期的にきていただいている。日々の健康管理、健康相談なども行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から病院関係者との情報交換を行うようにしている。また、入院した時には早期退院に向けたカンファレンスなどにも出席するようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居説明時に、重要説明事項を用いて重度化した場合の説明をしている。また、重度化した場合には、ご家族、主治医と話し合い終末期ケアの方針を決めている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護職には出来ることに限りがあるため、主治医との連携は密にとり役割について明確にし、支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やご利用者様に関わる関係者と話し合いや情報交換を行い、ニーズやリスクを明確にしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊重や尊敬することを念頭に置き、自尊心を傷つけないような声かけをしている。	○	記録など個人情報に関わるものすべてステーションに保管し、誰でも見れないようにしている。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様が意思表示、決定権を持てるような声かけを行い自立支援に努め、説得するのではなく納得していただけるように心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個人個人のペースを大切に、希望要望を出来るだけ実現できるように支援しているが、職員側優先になってしまうことがある。	○	ご利用者様本位とは何か、重ね重ねミーティングの議題とし話し合いを行っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回訪問理美容を利用している。また、自己実現に繋がるように支援している。	○	衣類の選択等自己決定をしていただきながらおしゃれが出来るような声かけを行っている。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の能力を把握した上で、食事を作る過程と一緒にすることにより、楽しい時間の提供となるよう支援している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者様の健康状態を考慮し、好みのものを提供させていただいている。希望要望を可能な限りではあるが、日常的に楽しめるよう支援している。	○	行事の時にはお酒の提供もさせていただいているが、要望がある場合のために常時準備している。また、健康管理のため主治医との連携を図っている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目標にしている。また、ご利用者様個々の状態を常に観察し排泄ケアに活かしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は決めさせていただいているが、希望があった場合には勤務者で話し合い出来るだけ希望に沿えるようにしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様の健康状態を考慮した上で、日中のレクリエーション、体操、散歩などを行っていただき夜間の安眠となるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様の生活歴に合わせてやりたい事、出来る事を日常生活に取り入れ、役割として活かし達成感、満足感、喜びが得られるよう支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、ご家族に了解をいただいたうえで所持していただき、外出レク、買物時に金銭のやりとりが出来るようにしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には職員から積極的に外出の声掛けをさせていただいている。散歩は日常生活の中に取り入れている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族に協力していただきながら自宅に帰られたり出来るよう支援している。また、個別、ご利用者様同士の外出については、会社の車を使い外出している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどは親族、ご友人に送れるよう支援している。電話はご家族の了解を得たうえで電話をかけられるよう支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ご家族やご友人が来られた時には、職員から感謝の気持ちをお伝えしたり、ご家族、ご利用者様、職員で会話をしたりし気兼ねなくこれるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関するマニュアルを作成し、毎月のケアカンファレンス時に全職員で話し合っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所玄関の鍵は電子錠にて掛かる状態になっている。居室やユニットの鍵は掛けないようにしている。又、リスク委員、抑制係を中心に話し合いの場が毎月あり、継続した取り組みをしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認を目的とせず会話などをしながら確認するように努めている。特に安全確認が必要な方には、所在確認表を用いる事もある。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自宅での生活になるべく近い環境で生活していただきたいと考えているが、ハサミ等危険なものについては、ご家族と相談をさせていただいたりし事業所にて預らせていただいている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1つの事故には多くの原因、インシデントがあると常々考えている。再発防止のために1週間カンファレンスを実施し、全職員で取り組むようにしている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを夜勤に入る職員は必ず確認するようにしている。又、定期的に救命講習を事業所にて実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署員指導の下避難訓練を実施している。又、他事業所や今までにあった災害を事業所のリスクと捉え、全職員で話し合いをする場を作っている。地域住民の方にも避難訓練の報告を毎回行っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険となる事に関しては必ずご家族に説明するようにしている。又、面談時には生活の中で起こりえるリスクを説明した上で、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕の申し送りや経過記録にて情報を共有すると共に、毎日の10分間カンファレンスにて早期対応を実施するようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人のお薬を分かりやすくBOXに保管し、内服までには3回のチェックが出来るようにし、誤薬防止に努めている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者様の状況に応じ、便秘予防となる食材の提供を心掛けている。又、お一人お一人にあった食材が選べるように主治医と連携を図っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には毎食後歯磨きをしていただいている。必要な方には口腔内の観察も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は喜び、生活の一部となるため主治医と相談しながら量、味付けを行っている。又、水分摂取が困難な方には水分チェック表を用いている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	色々な感染症があるため、各委員(食事、リスク、入浴)での取り決め、啓発を毎月実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の使い分けや毎日の消毒を行っている。又、調理方法などについても取り決めをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や庭などにお花を飾るなどして明るい雰囲気作りに努めている。職員と近所の方との交流の場にもなっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内が居心地が良く華やかに感じていただけように季節のお花や職員とご利用者様で栽培したお花等を飾るようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル、椅子を3箇所を設置し、お茶を飲みながら新聞を読まれたり、会話をしたり出来る環境づくりをしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を利用させていただいている。又、配置などもご利用者様、ご家族と話し合いながら少しでも安らげるように工夫している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室は状況に応じ毎日換気するようにしている。温度や湿度に関しても不快とにならないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かせるように手摺り、補助器具の配置をしている。又、ご利用者様により危険となるものがちがうので、日々考え工夫をしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者様のアセスメントをし、能力をよく理解したうえで自立支援となるように工夫している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	事業所周りではプランターでお花を飾ったり、剪定をしたりしている。又、庭には野菜を植え収穫し食事に提供するなどしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自立支援、その人らしさを大切にし応援する気持ちを持って支援します。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中にあるグループホームとして利用者の能力に応じ、自立した生活を営みます。」という理念をもとに、基本方針にも地域との関わりということを組み込んで作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティングの時間を使って理念について話しをする事を初めとし、毎朝、介護の心得10条の唱和を行い、意識の向上に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の理念を「重要事項説明書」に明示し、玄関や各ユニットに提示している。又、家族会や運営推進会議の開催に際し、ご家族や地域の有識者に折に触れ、理念や取り組み等について説明している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際には、隣近所の方と挨拶や軽いお話をしている。近隣の方が、畑で採られたお野菜を持って来て頂ける事もある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社会福祉協議会が開催するふれあいフェスタや地区の夏祭り、海岸の清掃活動等に参加したり、地域の学生さんが職場体験に来られたりして、地域の方々との交流を深めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の学生さんによる職場体験や、人材育成の貢献としてヘルパー研修の受け入れも積極的にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員は、外部評価を実施する意識を理解し、前回受けた外部評価を基にして話し合い、改善に向けての取り組みを行った。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所での取り組みや活動を報告している。参加者の方より地域情報を教えて頂くなど、情報の交換の場となりサービスの向上に繋がっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所内で事故があった場合には、速やかに町に報告書を提出するようにしている。又、ご利用者の相談だけではなく、災害時の件や消防設備に関しても相談に乗って頂くような連携、機会を作りサービスの向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対して研修を開催したり、資料やパンフレットも常備しており、制度についての知識を深めている。又、必要に応じて説明を行うようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングにて虐待防止の徹底を図っている。ご家族とも出来る限りコミュニケーションを取り、お困りの事などないか尋ねる様にしている。又、事業所内でも虐待に該当する様な事がないか、十分な注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所で出来る事と出来ない事や、ケアに関する取り組みや考え方等を時間を取り丁寧に説明をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が、気兼ねなく話して頂く様な環境作りに努めている。また意見を言いやすい雰囲気作りを心掛け、ご利用者様の思いを見逃さない様にしている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ご利用者様の身体の状況をモニタリング兼評価として、書類を作成してご家族へ送付するようにしている。又、体調不良等、何か特別な事があった際には電話ですぐに連絡をして対応するようにしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議の開催にて、ご家族のご希望や要望をだしてもらおう機会としている。又、アンケートを実施し、ご家族より率直なご意見を頂き反映できるようにしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人にとって重要な事についての決定は法人で行うが、ミーティングや個人面談等にて出来る限り職員の意見を伺うようにし、運営に反映出来る様にしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に柔軟な対応する為に、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務調整に努めている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正職員のみ事業所間の異動があるが、異動や離職の際はご利用者様にご迷惑を掛けないよう、十分な引継ぎやご利用者への説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別などを採用の基準とはしていない。未経験からでも働ける環境があると共に、勉強会や内部研修等充実させている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会・研修の実施にて常に学んでいる。また毎日の申し送りの際に「介護の心得10条」においても全職員にて唱和し意識して取り組んでいる。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、勉強会、外部研修などへの参加支援を行っている。また、法人での研修システムを構築している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での行事に参加したり、定期的な訪問をする事で、意見交換や情報交換を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい環境づくりに向け、日々の業務の中で定期的な対話を通しストレスが蓄積しないよう取り組みをしている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の得意分野を大切に、苦手分野においても職員同士支え合いながら働けるように意識して、お互いが向上心を持てるように努力している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族、関係者からの情報(生活歴)を基にしご本人様のお話をしっかりと受け止める様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで幾度も面談を行い、よりご家族の事を知るように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活や環境から必要とするサービスを見極め、ご家族の方と相談しながら適したサービスが受けられる様に努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用していただいたりしている。また、入居前には事業所側から出向きお会いしたりしている。	○	入居前からご家族に情報を提供していただき全職員で把握し、入居後すぐに話題作りが出来るようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊厳と尊重、ご利用者様本位を念頭に置き、自立支援を行い共に支えあう関係が築けるように努めている。		
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会、面談時には必ずご利用者様の方の話題提供を行い、一緒に話し合うようにしている。また、ご家族の方に相談することも必ず行い一緒に支えていけるように努めている。	○	ご家族の思い、希望を大切にし一緒にご利用者様の事を考えるように努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な家族会・行事等の参加の呼びかけなどを行っている。	○	今後もご家族の方に積極的に、行事等の参加呼びかけを行っていく。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様のご友人の面会や、ご自宅への一時帰宅など、ご家族と協力しながら行っている。	○	事業所での行事の参加声掛けを行い、今後も関係を継続していきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	コミュニケーションを図りにくい方には、職員を交えて話題転換を行いおやつ時間など設けている。	○	孤立しない様に声掛け、集団レク等実施を充実していきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後でも、事業所に来訪して下さる方もいらっしゃるの、事業所との関係を大事に行きたい。	○	契約終了後でも、いつでも相談や気軽に来訪出来る環境作りをしていきたい。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を把握した上でのケアサービスの提供を行っている。	○	今後も一人ひとりに見合ったケアの提供、ご本人様の尊重を優先してより良いサービスの提供を行っていく。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中や、ご家族からの情報等提供していただき把握している。日々日課としていた事などの情報提供をお願いしている。	○	ふれあい通信の提供、月1回のケアカンファレンス等で、サービス利用の経過の把握をしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のご利用者様の变化にすぐに気づく様にし、ご利用者様の方にとって過ごしやすい環境作りを行っている。	○	ご利用者様一人ひとりの生活歴を会話の中から引き出し、日課となる事を充実させる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、毎日の10分カンファレンス、面談等の実施、ケアプラン作成を行っている。	○	月1回のケアカンファレンス・毎日の10分ケアカンファレンスの実施を行い、関係者の意見を取り入れ、より良いケアプラン作成を行っていく。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じ、その都度ケアプラン変更・見直しを行っている。	○	ケアカンファレンス等への、ご家族の協力をお願いし一緒にプランを考え充実した内容にしていく。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施の有無、また日々の様子の記録を残しケアプランの立案の参考にしている。	○	日々の気付きを、解り易く記録し今後のり良いケアプランにつなげていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族・地域の方達との交流の場として、餅つきなどの行事を開催しコミュニケーションを図っている。	○	ご利用者様・ご家族の方の要望を出来るだけ取り入れ、柔軟な支援をしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回消防署員の方に出向いていただき防災訓練を実施している。また中学校の体験学習の受け入れも行っている。	○	体験学習の時などは、個人情報に関わるので、ご家族にも了解を得ている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて主治医とのカンファレンス実施後、訪問リハビリ、マッサージの利用をしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に出向いたり、訪問していただいたりして情報交換をおこなっている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制にて対応して頂ける様に、日頃より情報の共有を行い、健康状態に変化がある場合は、直ぐに連絡し指示を頂く様にしている。	○	入居前からの主治医のいる方は、希望があれば継続し状況に応じた対応が出来る様に支援していきたい。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に情報の共有を行いながら、状況に応じて診断・治療が適切に送れる様に、支援している。	○	健康状態に変化がある場合など含め、いつでも相談出来る工夫を行なっていく。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に、訪問看護の日があり、ご利用者様・職員共に看護師と気軽に相談している。	○	提携したの病院から看護師の健康相談の日が定期的にあるので、その都度情報の共有を行っていく。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段から病院関係者との情報交換を行うようにしている。また、入院した時には早期退院に向けたカンファレンスなどにも出席するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居説明時に、重要説明事項を用いて重度化した場合の説明をしている。また、重度化した場合には、ご家族、主治医と話し合い終末期ケアの方針を決めている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護職には出来る事に限りがある為、主治医との連携は密にとり役割について明確にし、支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やご利用者様に関わる関係者と話し合いや情報交換を行い、ニーズやリスクを明確にしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊重や尊敬する事を念頭に置き、自尊心を傷つけないような声掛けをしている。	○	記録など個人情報に関わるものすべてステーションに保管し、誰でも見れるようにしている。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様が意思表示、決定権を持てるような声掛けを行い自立支援に努め、説得するのではなく納得していただけるように心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個人個人のペースを大切に、希望要望を出来るだけ実現できるように支援しているが、職員側優先になってしまうことがある。	○	ご利用者様本位とは何か、重ね重ねミーティングの課題とし話し合いを行なっている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回訪問理美容を利用している。また、自己実現に繋がるように支援している。	○	衣類の選択等自己決定をしていただきながらお洒落が、出来る声掛けを行っている。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の能力を把握した上で、食事を作る過程を一緒にする事により、楽しい時間の提供となるように支援している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者の健康状態を考慮し、好みのものを提供させていただいている。希望要望を可能な限りではあるが、日常的に楽しめるよう支援している。	○	行事の時にはお酒の提供もさせていただいているが、要望がある場合の為に常時準備をしている。また、健康管理のため主治医との連携をはかっている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目標にしている。また、ご利用者様個々の状態を常に観察し排泄ケアに活かしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は決めさせていただいているが、希望があった場合には、勤務者で話し合い出来るだけ希望に沿えるようにしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の健康状態を考慮した上で、日中のレクリエーション、体操、散歩などを行っていただき夜間の安眠となるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様の生活歴に合わせてやりたい事、出来る事を日常生活に取り入れ、役割として活かし達成感、満足感、喜びが得られるよう支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、ご家族に了解をいただいた上で、所持していただき、外出レク、買い物時金銭のやりとりが出来るようにしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には職員から積極的に外出の声掛けをさせていただいている。散歩は日常生活の中に取り入れている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族に協力していただきながら、自宅に帰えられたり出来るように支援している。また、個別、ご利用者様同士の外出については、会社の車を使い外出している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどは親族、ご友人に送れるように支援している。電話はご家族の了解を得たうえで電話を掛けられる様支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ご家族や友人が来られた時には、職員から感謝の気持ちをお伝えしたり、ご家族、ご利用者様、職員で会話をしたりし気兼ねなく、来れるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関するマニュアルを作成し、毎月のケアカンファレンス時に、再度全職員にて話し合いを行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関は電子錠の為に、常時鍵は閉めた状態となっている。また事業所前は、交通量が多い為に危険回避の為に鍵は閉めた状態になっている。	○	居室の鍵は、常時開けて日中・夜間ともに対応している。玄関の開錠は、職員見守りのもと実施している。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者様お一人おひとりの行動の確認・所在確認を行い、安全に生活していただける様に配慮している。	○	転倒の危険がある方や帰宅願望の強い方は特に24時間所在確認表などを活用し、転倒防止や単独外出防止に努めている。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状況に応じ危険と職員が判断した場合は、ステーションにお預かり又は、ご家族に説明し対応している。	○	ハサミなどの刃物は原則的に事業所で預かり、転倒や誤食などの危険が生じる可能性がある場合は、家具の設置状況など検討していく。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為に、それぞれの項目ごとにマニュアルの作成を行い把握している。誤薬しない様に職員間での確認を徹底している。	○	再発防止の為に、日頃より状況に応じた適切な対応が出来る様に、事業所での勉強会やマニュアル等の再度見直していく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急救命講習の受講や、事業所内での緊急時の対応について日頃より、職員同士でご利用者様一人ひとりの状態把握を行っている。	○	ご利用者様の状態変化に即気付ける様になり、マニュアルを見直し緊急時に的確に対応出来る様に、日々努力していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回の定期的な消防避難訓練を行っている。また訓練実施の時には、近隣の方にもお知らせしている。	○	あらゆる場面を想定し、災害時の対応が少しでも的確に出来る様に日頃より把握していく。また近隣の方とのコミュニケーションも充実していきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の方には、起こり得るリスクに関して説明し、日々の生活の中でご利用者様の方の負担にならない様な対策を考えている。	○	少しでも危険と考えられる事があった場合は、その都度話し合い日々安全に生活していただける様に、対応していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕の申し送りや、ご利用者様の状態変化がある場合は、その都度各階に申し送り、また個人申し送り表に記録している。	○	毎日の10分ケアカンファレンス時に個人申し送り表に日々の気づき等記入していく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居様お一人おひとり、それぞれ解り易いようにボックスに保管し、お薬手帳・薬剤情報提供書にて把握している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・おやつ・水分摂取の工夫など食物繊維の多い食材を取り入れたりしている。また散歩や適度な運動のなど取り入れている。	○	ご利用者様の状況に応じ、便秘に良い食材選びなど考慮して偏りのない食生活を送って頂ける様に支援していく。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来るだけご利用者様に歯磨きを行なっていたり、歯冠ブラシ等使用し汚れや匂い軽減出来るように毎食後に実施している。	○	毎食後の口腔ケアと、定期的な歯科往診の診察にて対応していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の健康状態に応じ、血糖値などに注意し好まれる物の提供を行っている。	○	水分摂取などの拒否が強い方には、ゼリー状にするなどし提供している。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを設置しており、常に状況に応じた対応が出来るようにと取り組んでいる。	○	日々の取り組み内容として、外出先から帰った後すぐは、必ず手洗い・うがいの徹底、食事前の手洗い・消毒を行っている。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い後は必ず食器乾燥機にかけ、まな板・包丁は必ず熱湯消毒・ハイター消毒の徹底を行っている。	○	食材の使用方法として、生のままで使用せず一度熱を通したり、酢水に浸すなどして調理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所周辺には、季節の花やトマトやきゅうりなどの野菜も育てており、いつでも気軽に立ち寄れる雰囲気作りを行っている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や、季節の花をかざっている。また入口の近くには、金魚なども飼育しており、過ごしやすい雰囲気となっている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に数箇所ソファやテーブルを設置しており、一人になれる空間やご利用者様同士気軽に話ができる空間がある。	○	一人過ごされる空間にて、好みの音楽を聴いたりDVD鑑賞を楽しまれる事もある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご自宅で使用されていた馴染みの家具などを持って来ていただき、ご利用者様にとって居心地良く過ごせる様にしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内・リビング内共に、常に室温・温度調整を行いながら、体調管理にも十分に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為に、少しでも危険だと思われる所には、障害物を取り除き対応している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自尊心を損なわない様な声掛けを行いながら、ご利用者様一人ひとりの可能性を大切に、自立した生活が送れる様に支援している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	事業所の庭の花の手入れや野菜の栽培など行っている。また屋上でおやつの時間を過ごしたりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

積極的に地域行事への参加し、(ふれあいフェスタ・海岸清掃・地区の夏祭りへの参加)事業所での取り組みをアピールするなどしていきたい。いつでも地域の方が気軽に来訪していただける様に、事業所での行事への参加呼び掛けも行っている。今後ご利用者様・ご家族・地域の方々を含め色々な取り組みを行ってきたい。またご利用者様にとって居心地良く過ごして頂ける様に、ご利用者様お一人おひとりがその人らしく過ごして行ける様に、全職員で「皆で共に楽しく過ごせる時間を大切に」「ひとり一人がゆとりを持って生活を送る為に、その人らしさを応援します。」をキャッチフレーズに取り組んでいきます。